

# 肥培管理の改善による酒米品種

## 「吟吹雪」の収量向上

東近江農業普及指導センター

### 【普及活動のねらい・対象】

酒米品種「吟吹雪」は、平成10年の県育成品種で、それ以降JAグリーン近江酒米部会で作付けされてきました。当品種は、実需者の評判はよいにもかかわらず、平均収量が、323kg/10a（平成30年産）、236kg/10a（令和元年産）と低く、大きな問題となっていました。主な原因は最高分けつ期以降の葉色の低下（SPAD値40以下）と考えられました。

そこで、「吟吹雪」の生産者S氏、Y氏、U氏を対象に、葉色の維持に向けた肥培管理支援を行い、収量向上を図ることを目指しました。

### 【普及活動の内容】

各生産者の「吟吹雪」ほ場に実証ほを設置し、6月から9月まで週1～2回の生育調査を行い、葉色、草丈、茎数を把握しました。その結果をグラフ化し、対象へ情報提供しました。加えて、生産者、JAと「吟吹雪」栽培ほ場を巡回し、葉色の状況を確認しながら、施肥の時期・量を検討し、その実践を支援しました。



写真 生産者、JAとの現地巡回風景

また、部会での研修会や役員会の場を活用して、「吟吹雪」の栽培管理のポイントについて情報提供しました。

### 【普及活動の成果】

葉色に基づく施肥管理を実践されたことで、「吟吹雪」の葉色が保たれ、Y氏、U氏については、177kg/10a、361kg/10a（令和元年度産）から456kg/10a、494kg/10a（令和2年産）と大幅に増収しました。S氏は、出穂期に異品種混入が判明し、WCS対応となりましたが、肥培管理の大切さを理解されました。

安定生産を行うには、葉色を落とさないことが重要ですが、地力が小～中程度のほ場では、施肥量・回数が増加しました。次年度は、緑肥作物や牛糞堆肥を活用した、省力化・コスト低減に向けた取組支援を行っていきます。

#### ◎対象者の意見

「吟吹雪」は、葉色を濃く維持することが重要と解りました。次年度は、ヘアリーベッチ跡での栽培を行うので、引き続き支援をお願いします（生産者）。